

旧庁舎跡地活用に関する説明会要旨

平成 23 年 5 月 20 日（金） 18:30 万世橋区民会館 6 階洋室

区説明者：歌川部長・松本参事・島崎部長・服部参事・小川課長・古田副参事

出席者 22 名

質疑応答等

○初めて説明会に参加する人もいるので、高齢者総合サポートセンターのワンストップ 24 時間 365 日相談体制が完全の実現できるのか説明してほしい。

→・高齢者総合サポートセンターの構想が、まず相談を受け止めて適切な対応をしていく仕組みをつくることから始まっている。24 時間 365 日対応の完全実施で考えている。

○区境に住んでいて区外にかかりつけ医がいる。かかりつけ医が区外にいる場合の対応は。

→・（資料 12 ページ）在宅療養支援機能のより具体的な取組内容について会議体を設けて、その中でご指摘の点についても対応に漏れがない方向で検討している。

○虎の門病院、東京医科歯科大学附属病院と連携して難しい病気になった場合に紹介してもらえとのことだが、九段坂病院を受けた場合にきちんと紹介をして診察を受けることができるのか。

→・虎の門病院、東京医科歯科大学附属病院規模は九段坂病院と協定を結んでおり、協定の中で優先的な紹介ができるよう担保していく。

○九段坂病院で健診と人間ドックを実施するとあるが、人間ドックは費用面で区民と一般の受診者との区別はあるのか。

→・費用について具体的に協議をしていないので確かなことは言えないが、可能かどうか九段坂病院に打診してみたい。

○会議体とは？

→・病院の取組がしっかり図れるよう、もともと在宅医療と介護の連携推進協議会が区にあり、部会として在宅療養支援機能の具体的な取組内容について議論していくよう進めている。

○部会とは？部会に九段坂病院は入っているのか。

→・医師会からは実際にいま係わっている医師との継続的な安心の見守り体制を尊重して、かかりつけ医として馴染んでいる医師との基本的な安心パターンをベースにそれを補足するような形で九段坂病院の関わりが大事との意見をもらっている。区としても、かかりつけ医を区内区外を問わず一義的に尊重することはとても大事だと思っている。高齢者総合サポートセンターができた後も、区民と身近な医師との関わりはぜひ大切にする中で運用していきたい。その詳しい仕組みを部会で議論していく。

- ・区の介護保険運営協議会会長をトップに地域の医療機関、介護サービス事業者で構成している。医療と介護の連携について検討している。九段坂病院は（医師会の中でメンバーとして）入っている。

○24 時間 365 日対応の人員は？

- ・これから対応可能な体制をつくっていく。区の高齢介護課相談係が直営部分として対応することを考えている。休日・夜間対応については今後検討していくが、社会福祉の専門が2人以上で対応することを考えている。

○医師は入るのか。

- ・高齢者総合サポートセンターには医師はいないので、医師の診断や診療が必要になれば九段坂病院の医師が対応する。

○区民優先のベッド数は。

- ・ベッドを常に確保しておくのは難しい。空いているベッドに優先的に入れるように検討していく。現時点では、今後も含め具体的な数は言えない。

○平成 19 年に庁舎が移転し、旧庁舎跡地の意見募集もあったが今回、案が決まりよかったと思っている。老老介護の人が多く、大変である。早急に高齢者総合サポートセンターを作してほしい。

○九段会館が閉鎖すると報道されているが、今後区に企業が開発等を持ちかけてきたら断ち切って進めるのか。

- ・旧庁舎跡地に高齢者サポートセンターと九段坂病院を整備するこの計画は、周辺の開発とは別であり、もし、ご質問のような状況が生じて、旧庁舎跡地を活用するこの計画は変えずに進めていく。

○高齢者総合サポートセンターができることを期待している。千代田公会堂が使えなくなり、九段会館も閉鎖してしまった。多世代交流拠点の多目的ホールはどのくらいの規模か。

- ・300㎡を考えている。常設のサロンを開く。高齢者だけでなく、子育て中の方など様々な世代の方が利用できるようにする。区役所 1 階の区民ホールのイメージ。したがって、旧千代田公会堂的なものではない。今回意見募集をしているので、サロンコンサート的な利用も検討してほしい等意見を寄せてほしい。

○建物の規模が地上 13 階程度となっているが、地下は？

- ・現状では地下 2 階。機械室、駐車スペースを想定している。

○地下 2 階に機械室があると、災害時に危険ではないのか？神田地区は津波が来ると 3～4mは沈むという話もある。地下に作るのではなく、ある程度の高さのあるところに持っていった方がいいのではないか。

- ・計画（案）は 3 月 11 日の東日本大震災以前に作成している。防災の観点

から（費用がかかることも含め）十分検討していきたい。
○地下は自家発電設備や井戸等、防災上の設備考慮してほしい。

○7 ページに高齢者センタースペースが 1.5 倍に拡大するとあるが、現在はどれくらいなのか？

→・約 950 m²で、1.5 倍の約 1,400 m²になる予定である。（2 フロア）

○13 ページの九段坂病院の経営状況について、KKR 全体の経営状況は。

→・KKR 全体としての収益は現在把握はしていない。

○平成 19 年 5 月に区役所跡地への移転を区に要請した九段坂病院の院長は？

→・現在の病院長である。なお、区は九段坂病院とではなく、KKR（連合会）と協議し、協定を結んでいく。

○回復期リハビリテーションと介護保険は別のものか。

→・回復期リハビリテーションは医療保険の対応である。

○総合診療科と内科の違いは。

→・総合診療科は内科を含め幅広い医師を配置する想定。一次的な見立て、専門医へのつなぎをする。どういう医師を置くか等（一時的な見立てができる、専門医へつなぐことができる）については九段坂病院にお願いをしている。

○ 11 ページの分娩と小児科について、九段坂病院と他の病院との協定は誰が結ぶのか。

→・九段坂病院がそれぞれの病院と協定を結ぶ。

○17 ページの借地権 2 分の 1 とあるが月額でどのくらいを想定しているのか。

→・土地の鑑定評価等を行い、算定する。現時点の想定額は 2 分の 1 の減額後、年間 5,000 万～8,000 万円。

○ 9 ページの建築費の一部を助成するとは。

→・リハビリテーションの部分で訪問・通所リハビリテーションの九段坂病院面積の一定割合を想定している。

○12 ページの回復期リハビリテーション病棟は区内にはないとのことだが、他にどこにあるのか

→・正確に把握していないが、よく知られた病院としては初台にリハビリテーション専門の病院がある。回復期リハビリテーション病床は、需要を満たしていないという実態はある。

○賃料は九段坂病院が区民に対する貢献を考慮してゼロベースでもいいのではないか。

○（今回の計画は）区で行うのであるから区民に活かなければならない。区民のために（高齢者住宅のように）高い費用ではなく、区民が利用できる範囲内のものにしてほしい。

→・回復期リハビリテーション病棟は医療保険の範囲内で入れる病棟をKKRに申し入れて確認している。（すべてではない）

今後基本協定、運営をしていくなかで、区民の皆さんの安心できる高齢者総合サポートセンターが活きるようにしていきたい。

（19:58 終了）